



部落差別から見る

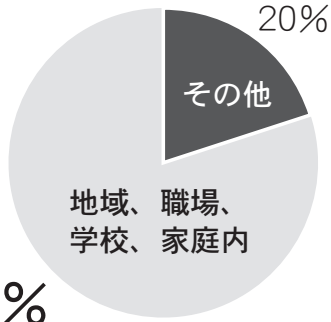
「マイクロアグレッション」

若い人を中心に「部落差別を知らない」という人が増えています。「昔話」「遠い話」「他人事」として受け止められているようです。

本当にそうでしょうか？

差別は実際身近な所で起きている。平成26年の「鳥取県人権意識調査」によると同和地区の人々に対する差別的言動を直接見聞きしたことがある人の約80%が、地域や職

部落差別の言動を見聞きしたのは



場、学校、家庭内などで見聞きしたと回答しています。

また、インターネット上での部落差別も大きな問題になっており、偏見や差別意識を助長するような情報、個人に対する誹謗・中傷などが見られます。



差別するのでもされるのでも一部の「特別な人」じゃないの？
「自分は差別していない」「自分には関係ない」

などと思っていると、気がつかないままに、無意識、無自覚に差別に加担してしまうことがあります。

相手を傷つけたり差別する意図はなくても、異なる人種、文化や習慣を持つ人に対する無理解、偏見、差別が含まれている「ささいな」「見えにくい」攻撃を「マイクロアグレッション」といいます。

例えば…

- ◆部落差別学習の時間に「ダルイ」と言ったり寝ている
- ◆思い切って被差別部落出身であると告白した友人に対し「そんなの関係ない」と言う

このような「悪気のない」「ささいな」発言や態度が被差別当事者にとっては心理的なダメージになります。

「マイクロアグレッション」は様々な人権問題で課題となっています。部落差別をはじめめとするあらゆる差別の解消に向けて、無自覚に差別に加担しないよう差別を「自分事」として捉え、相手の気持ちを想像することが大切です。

※参考文献

『今後の部落問題学習をどう展開するか』公益社団法人鳥取県人権文化センター



第13回久志谷・本折解放文化祭のお知らせ

日時 11月14日(土)～16日(月)

会場 久志谷児童館・老人憩いの家 ひばり荘

- ◆小学生・中学生・智頭農林高校・各教室作品・一般作品等の展示
- ◆小学生、中学生が地区学習会で学んだことを発表（動画上映）します。

問合せ先 役場総務課 ☎75-4111